

トルコギキョウ栽培後期（花芽発達期）における施肥の影響

トルコギキョウ栽培における花芽発達期の施肥は、切り花形質（外観）に及ぼす影響は少ないが、収穫後の日持ちを悪くする。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室（担当者：工藤陽史）

研究のねらい

切り花の評価は、外観と併せて日持ち性が考慮される。水あげが良く、日持ちに優れるトルコギキョウでは、日持ち性が良いことが他産地および他品目との差別化、さらに需要拡大に有効である。これまでに、①開花期の温度・湿度管理、②冬季出荷作型での電照処理、③適正な摘蕾回数による収穫後の日持ち向上技術を発表している（農業の新しい技術 No. 661（平成 25 年 5 月）、農業研究成果情報 No. 588（平成 25 年 5 月））。ここでは栽培後期（花芽発達期）の施肥が、切り花形質（外観）と収穫後の日持ちに及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

1. 切り花形質は、施肥区と無処理区で大きな差はない（表 1）。
2. 水揚げは、施肥区と無処理区で収穫 1 日後の相対新鮮重に差はなく、同程度である（図 1）。
3. 日持ちは、施肥区が無処理区と比べて収穫 7 日後から萎凋小花の発生率が高くなり、相対新鮮重の低下も大きく悪い（図 1、図 2）。

普及上の留意点

1. 「ボレロホワイト」（中早生・八重咲き）を用い、平成 24 年 8 月 7 日に粒状育苗用培土（くみあい園芸用育苗培土 MKK 野菜用 1 号、南九州化学工業、N:P₂O₅:K₂O=200:4,800:200mg）とバーミキュライトを 3 : 1（容量比）を詰めた直径 15cm ポット（土量：0.8L）に R T F 苗を定植、定植後～発蕾揃いまで冷房設定温度が昼温 24℃、夜温 20℃のガラスハウス内で管理を行い、その後成り行き温度下のガラスハウスで栽培した試験結果。
2. 施肥時の調査時開花小花（1 次側枝頂花）の蕾長は平均 1.8 cm で 1~3 cm であった。
3. 収穫後の日持ちは、切り花長 70cm に調整後に水道水に生け、水は毎日交換、25℃恒温室内、12 時間照明（1,000lux）下での試験結果。

表 1 切り花形質

	収穫日 (月/日)	切り花長 (cm)	主茎長 (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	側枝数 (本)	開花輪数 (輪)	商品蕾数 (個)	花弁数 (枚)	下垂 (cm)
無処理区	10/22	72.8	50.5	4.3	43.0	3.4	3.9	4.0	10.3	18.3
施肥区	10/20	71.2	48.8	4.1	41.1	3.2	4.0	3.7	10.3	19.8

n=35

切り花長：切り口から開花小花の先端までの長さ

茎径：主茎頂花着花節から3節下の節間の太さ

側枝数：開花輪若しくは商品花蕾を有する1次側枝数

花弁数：開花第1花の花弁数

下垂：切り花を切り口を持って水平にしたときの水平面と切り花先端の距離

※施肥は、「くみあい磷硝安加里あさひエースS555」(ジェイカムアグリ(株), N: P205 : K20 = 15:15:15)を用い、窒素量30mg/株(窒素濃度300ppm×100ml/ポット)を10月1日と10月9日の2回行った。

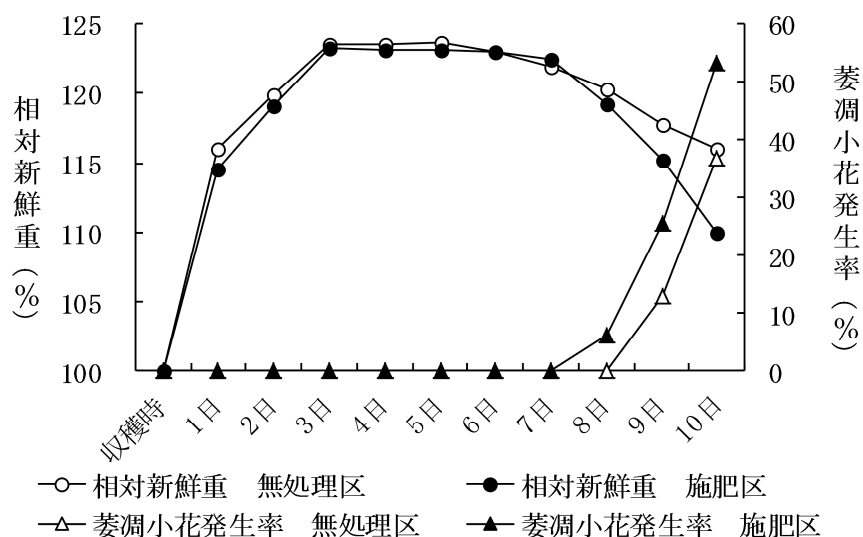


図 1 収穫後の相対新鮮重と萎凋小花発生率の推移 (n=10)

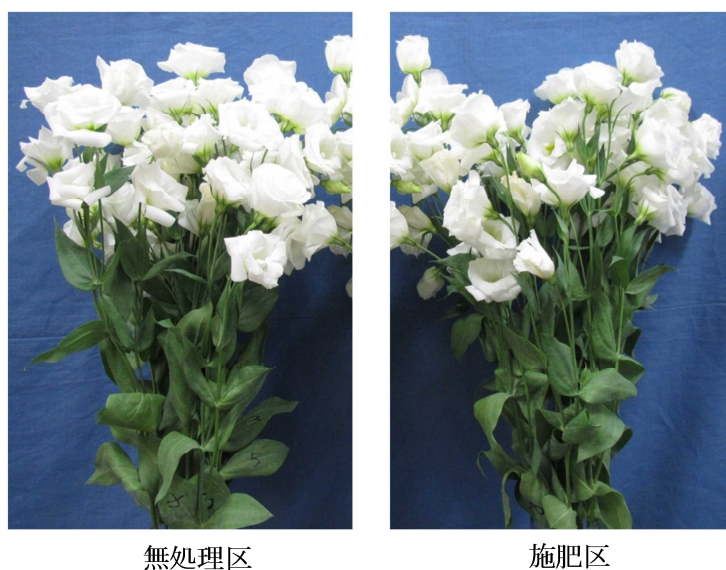


図 2 収穫9日後の日持ち調査における切り花の状態